



ここのえまち
70th
Anniversary
1955 - 2025

みんなでつなぐ 未来へのバトン
九重町 町制施行70周年

記念誌



九重町 町制施行70周年記念誌

記念誌の発刊に寄せて ————— 3p

九重町の生まれた日 ————— 4～5p

九重町のあゆみ ————— 6～13p

町民の声 ————— 14～15p

九重町の未来 ————— 16～17p

九重町ってこんな町 ————— 18～19p

70周年記念ロゴ



みんなでつなぐ 未来へのバトン
九重町 町制施行70周年

「みんなでつなぐ未来へのバトン」というテーマをもとにデザインしました。
九重町の頭文字である「こ」をバトンを受け渡すイメージで描き、「70th」の「0」の中に町の花であるミヤマキリシマをあしらいました。
このロゴマークは皆さんと一緒に70周年をお祝いし、テーマ「みんなでつなぐ未来へのバトン」を町内外へ広げていくことを目的としています。

九重町 町制施行70周年記念誌の発刊に寄せて



九重町長
日 野 康 志

昭和30(1955)年2月1日、東飯田村・野上町・飯田村・南山田村の一町三村が合併し、「九重町」が誕生しました。以来、70年間、九重町の発展にご尽力いただいた全ての皆様から感謝申し上げます。

九重町は誕生以来、豊かな自然とともに農林業と観光を軸に発展を続けてきました。肥沃な土壌と豊かな水に育まれた農作物は、町の誇りです。また、町の自然資源や温泉などの観光業は、地域経済を支える大きな柱となり、多くの方々に九重町の魅力を伝えてきました。

町制施行70周年のテーマは「みんなでつなぐ 未来へのバトン」です。この言葉には、これまで町を支えてきた皆様の思いを未来へ受け継ぎ、次世代へ希望をつなげていくという強い決意が込められています。私たちは、この大切なバトンを一人ひとりがしっかりと受け取り、より豊かで持続可能な未来へとつなげていかねばなりません。

今回お届けする記念誌には、これまでの町の歩みだけでなく、町の未来像も紹介しています。ぜひ、紙面を通じ、町の「これまで」と「これから」に思いをはせていただけると幸いです。また、14ページからは、「町の好きなところ、いいところ」をテーマに、住民の皆様の声とお顔を掲載しました。

このページを設けたのは、町は住民の皆様お一人お一人が主役であるということ、あらためてお示ししたいと考えたからです。同時に、住民の皆様の幸せを実現するという、原点に立ち返ったまちづくりをしていかなければならないと改めて考えています。

最近、ウェルビーイングという言葉をよく聞くようになりました。ウェルビーイングは、心身の健康だけでなく、社会的なつながりや生きがい、そして地域全体の、豊かさに支えられた暮らしを意味します。「幸せ」と訳すこともあります。

現在、私たちの町は、人口減少という課題に直面しています。住民一人ひとりが誇りを持って暮らし、共に未来へ向かって前進するために、私たち全員が力を合わせて取り組み、私の、そして私たちのウェルビーイング(幸せ)を実現していきたいと考えています。

「住民の力」をお互いに信じ合い、一緒に新たな時代の扉を開いていくことが、この町の未来を切り開く鍵です。「みんなでつなぐ 未来へのバトン」という思いを胸に、一緒に九重町の未来を築きましょう。

結びに、皆様のご健康とご多幸をお祈りし、記念誌発行のご挨拶といたします。



九重町議会 議長
有 吉 富 生

昭和30年2月に九重町が誕生して70周年の節目の年を迎えます。

この70年間、郷土の発展のために各分野にてご尽力いただきました先人の皆様に対しましては、敬意と感謝の念に堪えません。

また、町制施行60周年以降の10年間に町政に深く貢献され、表彰されました皆様方には、ご功績に対するお礼と、お祝いを申し上げる次第です。

さて、町制施行60周年目でありました平成26年は、九重町としまでも単独を選択し「小さくてもキラリと光るまちづくり」を念頭に置きながら進んでいく最中であつたわけであり、「自律推進計画」によりその方向性が示されていたこともあり、町議会としまでも平成31年2月に、議員定数を1名減らし12名として町議会議員選挙を行ってまいりました。

この10年間の議会活動を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の影響により、制限の加えられた議会運営を強いられたことが一番に思い起こされます。全世界を揺るがす未曾有のパンデミックの中で、これまでにない状況を経験することとなりました。

また、令和2年の豪雨災害により、当町も甚大な被害に見舞われました。頻繁に繰り返される自然災害の猛威を目の当たりにし、常日頃から議員各自が高い防災意識を備えていくべきであると感じる次第です。

先般、住民の皆様にもっと議会活動を知っていただくこと、そして、より開かれた議会を目指し、令和6年9月議会において「議会のあり方検討特別委員会」を設置し、今後の議員定数、議員報酬等の検証をふまえ、「議員のなり手不足」の問題解決を念頭に、地方議会としての様々な課題の解決に向けて取り組みを行っているところです。

全国的に見て、地方を取り巻く状況は年々厳しくなっているように感じますが、現行の第二次石破政権においては、「まち・ひと・しごと」の予算を倍増することで、「地方創生」に関する取組みを強固なものにしていくようでありますが、「地方創生」には、私たち町議会議員の創意工夫も必要であると感じております。

多くの課題が山積している昨今の状況ではありますが、地域の発展に向け、町議会も更なる努力を重ねることをお誓いし、町制施行70周年の記念誌発行に際しまして、町議会を代表しての挨拶とさせていただきます。

九重町が 生まれた日

昭和30(1955)年 2月1日

九重町が生まれたのは、どんな日・年だったのでしょうか。
当時の新聞から振り返ります。

前日(昭和30年1月31日)の大分合同新聞夕刊を見ると、「明日発足」のタイトルで、「九重町は新庁舎を当分の間、旧東飯田村役場に置くが、新町は人口20,538名。面積273km²(当時の数値)の大字であり、飯田高原、玖珠七湯、九酔溪などの観光地に恵まれ、高原の町としての発展が期待されている」とあります。

そして2月1日。朝刊一面は、「きょう公示・選挙戦へ」と第27回総選挙のスタートを報じています。大分県の天気は「晴れのち曇り」。九重町の発足は、夕刊に出ており、「看板の香りも新しく～きょう一市三町村新発足」の見出しで、大分村・中津市・湯布院町とともに紹介されています。開庁式が午前11時から仮庁舎で、新町職員約70名と来賓40名が出席して開かれたとあります。祝賀会もありました。当時は、テレビは普及しておらず、もっぱらラジオ。大分県は、NHKとラジオ大分の2局で「ちゃっかり夫人うっかり夫人」などのラジオドラマが人気でした。

初の町長選・町議選は、2月16日投票・17日開票のスケジュールで行われ、初代町長に武石邦雄さん(元南山田村長)が選ばれました。町議選は、4地区ごとに定員が割り振られ、合計30人の議員が選ばれています。町議選の地区割はその後続き、今のような全町一区になったのは昭和50(1975)年。青年団などの運動により実現しました。

昭和30年は全国的に、明るいニュースが多かったようです。「神武景気」が始まったこの年は、全国的な大豊作で、「トヨペット・クラウン」や「トランジスタラジオ」が発売されています。平均寿命もめきめき伸びはじめ、男性は64歳、女性は68歳に。大みそかの朝日新聞天声人語は、次のように振り返っています。
「昭和30年、1955年はどうやら終わった。内外とも、良いこと悪いことも色々あったが平均点を採るとまずまず佳い年の部類に入るだろう。国内も戦後10年間のうち、まあ一番いい年だった。(略) とにかく戦争はない。少なくとも戦争はずっと遠のいたという実感が世界中の人々の常識になったことは確かだろう」

九重町の合併への流れと当時のすがた

当時の町村合併資料を見ると、旧町村議会の「合併への議決」などの経緯が掲載されています。旧町村は昭和29(1954)年12月10日に、「旧町村を廃止して、その区域をもって九重町を設け、昭和30年2月1日から施行することを大分県知事に申請する」ことを議決しています。提案理由は「従来地理的・経済的に又文教風俗習慣上等(原文ママ)からも密接なつながりを持つ関係町村が適正規模の新町を建設し住民の福祉を増進、地方自治のいよいよ発展を期するため」とあります。申請を受けた大分県は昭和29(1954)年12月24日に採択。この瞬間、九重町の誕生が決まりました。

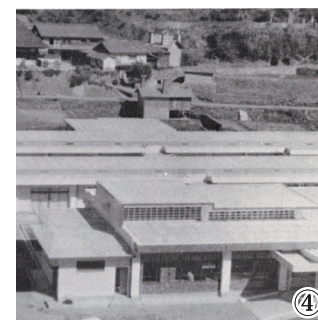
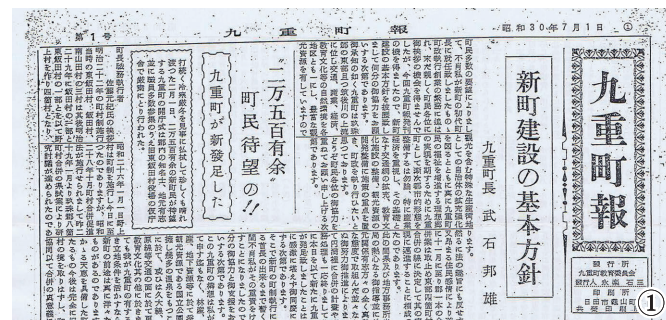
昭和30(1955)年の九重町の人口は、21,316人。このころがピークでした。子どもも多く、1年に生まれる子どもの数は699人。小学校は14(うち3つが分校)あり、総児童数は3318人。中学校は4つで総生徒数は1440人でした。

昭和35(1960)年の人口に占める65歳以上の高齢者の占める割合は5.6%と、若い町でした。1日に生まれる子どもは1.2人。1世帯当たりの平均は5.6人。その年の恵良駅の1日あたりの乗車数は1004人という記録も残っています。ラジオは1.4世帯に1台。新聞は1.9世帯に1部。電話は13世帯に1台。テレビの普及はまだまだで、町内の加入者は41世帯でした。



History of Kokonoe

九重町のあゆみ 1955 - 2024



1955～ 1960 1970 1980

1955 (昭和30年)

- 2. 1 町村合併促進法に基づき、東飯田村・野上町・飯田村・南山田村の1町3村を合併し「九重町」と改称。(写真①)
- 10. 1 国勢調査（人口は男10,523人・女10,793人、合計21,316人、世帯数は3,874）

1957 (昭和32年)

- 11. 26 九重町役場新庁舎落成。庁舎を大字右田3150番地に新築移転。

1958 (昭和33年)

- 11. 3 第1回町民体育大会開催。

1960 (昭和35年)

- 8. 23 九重町商工会が発足。

1961 (昭和36年)

- 6. 28 「九重の自然を守る会」が発足。

1963 (昭和38年)

- 1. 7 県北・玖珠郡など、各地に大雪被害。平野部で50cm、山間部では1.5mに及び、町内全域に被害。電話・電灯・バスなどが停止。(写真②)
- 4. 8 足立文化会館落成並びに足立正平翁胸像除幕。

1964 (昭和39年)

- 10. 3 九州横断道路が全線開通。(写真③)

1966 (昭和41年)

- 3. 一 日出生台演習場問題解決の方向へ。演習場用地の使用権の放棄と、これに伴う補償が決定。

1967 (昭和42年)

- 8. 12 大岳地熱発電所（我が国で2番目の施設）運転開始（出力12,000kw）。

1968 (昭和43年)

- 豪雪被害。平野部で75cmの積雪。家屋・森林・農作物に大きな被害。

1969 (昭和44年)

- 3. 25 玖珠養護老人ホーム亀鶴苑完成。(収容人員50人) (写真④)
- 8. 1 日田玖珠広域市町村圏事務組合の設立を許可。
- 9. 4 松木ダム定礎式。(写真⑤)
- 11. 一 県営恵良地区圃場整備事業に着手。(面積約200ha)

1971 (昭和46年)

- 6. 1 硫黄鉱山閉山。
- 7. 27 九重寿大学開設。

1972 (昭和47年)

- 2. 1 町内全地区、ダイヤル式に電話切替。
- 6. 16 九重町文化財保護条例制定。

1973 (昭和48年)

- 3. 20 千町無田圃場整備完成、233haの水田が整備され、受益農家140戸が農作業の合理化。

1974 (昭和49年)

- 7. 21 飯田高原の大將軍に、ノーベル賞作家川端康成の「文学碑」が完成。

1975 (昭和50年)

- 2. 19 大雪。飯田地区では1mにも及ぶ積雪を記録。町内の各学校で臨時休校。

- 4. 21 九州中部地震が発生。マグニチュード6.4を観測し、奥双石・寺床・栗原に甚大な被害。

1977 (昭和52年)

- 6. 24 九電八丁原地熱発電所が、出力55,000kwの営業運転を開始。(写真⑥)

1978 (昭和53年)

- 1. 20 旧湯坪小学校跡地に九重町基幹集落センター完成。

1980 (昭和55年)

- 4. 1 東飯田・野上・南山田の3農協が合併し、九重町農業協同組合が発足。(写真⑦)
- 10. 31 農林水産省は、全国の昭和55年産水陸稲の作況指数は、記録的な冷害のため、88と発表(昭和53年の84に次ぐ戦後2番目の凶作。九重町の作況指数は75)。

1982 (昭和57年)

- 7. 24 集中豪雨に襲われ、町内各所に大被害発生。(写真⑧)
- 5. 15 九重グリーンパーク落成式。

1983 (昭和58年)

- 8. 1 大分県立九重少年自然の家が完成。
- 12. 1 九重町「町民憲章」制定。

1984 (昭和59年)

- 11. 30 国鉄宮原線廃止。九州の赤字線で初めて、軌道輸送47年の歴史が閉幕。

1985 (昭和60年)

- 4. 22 日田・玖珠広域事業として建設された「玖珠共同斎場」が完成。5.1使用開始。



1990

1986 (昭和61年)

- 3. 23 宝泉寺交通センター・恵良交通センター・隣保館が完成。(写真⑨)
- 4. 1 九重町防災行政無線通信施設、スタート。
- 5. 26 特別町民制度「ふるさと九重の味だより」第1便発送。
- 9. 10 昭和9年12月指定の「阿蘇国立公園」は、この日「阿蘇くじゅう国立公園」と改称。
- 10. 7 「鳴子川発電所」、運転開始。

1989 (平成元年)

- 2. 9～
12 第1回くじゅう氷の祭典が開催される。(写真⑩)
- 4. 1 「玖珠郡農業共済組合」発足。
- 4. 14 先端技術農業の拠点としての「九重町農業バイオセンター」が、湯坪に完成。
- 9. 14 筋湯温泉と長者原を結ぶ幹線道路、「泉水グリーンロード」が開通(延長5,804m)。

1990 (平成2年)

- 4. 1 野上・南山田出張所廃止。
- 4. 1 大分県玖珠事務所が、組織改正により「大分県玖珠・九重地方振興局」と名称変更。
- 8. 5 第1回飯田高原マラソン大会開催。
- 10. 16 九州電力八丁原地熱発電所2号機(出力55,000kw)が竣工(県下の地熱発電量は125,500kwとなり、全国の46%を占めることとなった)。

1991 (平成3年)

- 4. 17 「九重町商工会館」が右田に新築移転。

- 7. 26 佐世保市と姉妹都市調印。(写真⑪)
- 9. 27 台風19号襲来。各地に甚大な被害続出。

1992 (平成4年)

- 6. 19 町立野矢小学校新築完成。
- 7. 7 豊後玖珠家畜市場が新築完成。

1993 (平成5年)

- 1. 14 農村アメニティコンクールで優良賞を受賞。
- 4. 20 農業用道路(四季彩ロード)開通。
- 7. 8 壁湯と宝泉寺間を結ぶ国道387号宝泉寺バイパス開通式。

1994 (平成6年)

- 3. 31 飯田出張所廃止。
- 4. 8 町営青山住宅が完成。
- 4. ー 釘野千軒遺跡の発掘調査終了。
- 6. 25 「九州横断道路」(通称やまなみハイウェイ)が、この日から通行無料となる。
- 7. 14 町役場の新庁舎起工式。

1995 (平成7年)

- 2. 25 第37回県内1周大分合同駅伝大会で玖珠郡チーム初優勝。
- 3. 10 大分自動車道(九州横断自動車道)日田～玖珠間(24.7km)が開通。
- 6. 23 九州電力滝上地熱発電所建設起工式。(発電量25,000kw)。
- 8. 7 九重町庁舎新築落成。(写真⑫)
- 10. 11 257年ぶりに九重山系硫黄山で噴火。
- 10. 13 地域総合保健福祉センター建設起工式。

2000

1998 (平成10年)

- 4. 25 国道210号線沿いに「九重ふるさと館」が完成。(写真⑬)
- 10. 9 玖珠清掃センターに新しいごみ焼却施設が完成。
- 12. 7 隣保館の一階トイレ内に差別落書き。

1999 (平成11年)

- 2. 4～
8 日出生台演習場において米軍実弾射撃訓練が実施。
- 3. 19 九重文化センターが完成。(写真⑭)
- 3. 21～
22 町民手づくりのミュージカル「朝日長者物語」を上演。
- 11. 27 県民芸術祭でミュージカル「朝日長者物語」を上演し、芸術大賞受賞。

2000 (平成12年)

- 1. 14 田舎暮らしの取り組みで、九重町が自治大臣表彰を受賞。
 - 2. 3～
10 日出生台演習場において米軍実弾射撃訓練が実施。
 - 3. ー 玖珠清掃センターに粗大ごみ処理施設完成。
 - 4. 22 文化センター内に歴史資料館がオープン。
- ### 2001 (平成13年)
- 6. 1 J A九重町とJ A大分玖珠町が合併し、J A玖珠九重としてスタート。



2010

- 7. 27 オール電化の九重町立学校給食センターが落成。
- 12. 14 玖珠町と九重町の3役による「新しい町づくり研究会」を設置。

2002 (平成14年)

- 1. 24 両町議会で「市町村合併対策特別委員会」設置。
- 2. 1～
 - 13 日出生台演習場において米軍実弾射撃訓練が実施。
- 3. 7 自衛隊ヘリコプターが南山田地区の山林に墜落する。
- 3. 26 職員による「市町村合併研究会」が町長に最終報告書を提出。2パターンが望ましいと報告。①九重町・玖珠町・湯布院町 ②九重町・玖珠町・湯布院町・庄内町・直入町・久住町
- 5. 13 議会全員協議会で、「玖珠郡任意合併協議会」設置の合意。
- 5. 20 玖珠郡任意合併協議会の事務局が中西部農業共済組合に設置。

2003 (平成15年)

- 4. ー 総合行政ネットワーク稼働（町内主要施設(26箇所)を光ケーブルで結ぶ）。
- 4. 16 県道田野野上線バイパス竣工式。
- 9. 19 2町による玖珠郡合併協議会設置議案が可決。
- 10. 1 玖珠郡合併協議会（法定）が設置。

2004 (平成16年)

- 2. 17 日本で2列目となる高原病性鳥インフルエンザが発生。
- 2. 27 県内一周大分合同駅伝で玖珠郡が優勝。
- 3. 5 九重町長が玖珠町長を訪れ、合併協議の凍結の申し入れ。
- 3. 11 高原病性鳥インフルエンザの終息宣言。
- 3. 17 九重町は、第7回玖珠郡合併協議会で合併協議の凍結を表明。
- 3. 24 小平谷の岩尾幸美さんが参加するホッケー女子のアテネオリンピック出場が決定。（8月13日～8月29日）
- 9. 8 町長は、町議会で「自律のまちづくりを模索する」ことを表明。

2005 (平成17年)

- 3. 27 淮園小学校栗原分校卒業式・休校式。
- 4. 26 玖珠環境衛生センター建替え落成式。
- 11. 19 「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」ラムサール条約登録湿地記念式典。（写真⑬）
- 12. 20 「九重町自律推進計画」策定。

2006 (平成18年)

- 7. ー ブルーベリー産地西日本一達成。
- 8. ー 県営広域農道が完成。
- 10. 20 九重“夢”大吊橋落成式（来賓500人、来場者6500人）。（写真⑮）

2007 (平成19年)

- 4. 2 玖珠九重行政事務組合発足式。
- 4. 21 九重ふるさと自然学校開校式。

2008 (平成20年)

- 3. 16 ここのえ“夢”クラブ設立総会。
- 9. 28～
- 10. 2 多目的グラウンドにておおいた国民体育大会ホッケー競技が開催。天皇后両陛下がご観戦。（写真⑮）

2009 (平成21年)

- 5. ー ハザードマップを町内全戸に配布。
- 6. 2 CATV事業竣工式。
- 10. 1 九重町コミュニティバス実証運行開始。

2010 (平成22年)

- 4. ー 飯田ふれあい交流センター（飯田公民館）完成。
- 6. 30 豊後中村活性化交流センター落成。（写真⑲）
- 11. ー 宝泉寺・栗原線バイパス“宝泉寺蛭ロード”完成。

2012 (平成24年)

- 10. 22 町内で差別落書きが発見。

2013 (平成25年)

- 3. ー ここのえ緑陽中学校の落成に伴い、町内の4中学校でそれぞれ閉校記念式典を開催。
- 5. 11 九重町立ここのえ緑陽中学校の開校式。（写真⑳）
- 7. 7～
 - 13 ロシアで行われた第27回ユニバーシアード競技大会柔道競技78kg級において梅木真美さんが銅メダルを獲得。

2014 (平成26年)

- 5. 24～
 - 25 全国小さくても輝く自治体フォーラムin九重開催。

2015 (平成27年)

- 3. 30 飯田こども園落成式。町立の幼保連携型認定こども園として平成27年4月より開園。（写真㉑）
- 8. 5 菅原地区地熱発電施設（菅原バイナリー発電所）竣工式が行われる。
- 8. 11 「坊がつる讃歌」歌碑建立除幕式と「山の日」制定記念祭in大分・くじゅう記念式典開催。（写真㉒）
- 8. 28 カザフスタンで行われた「2015年アスタナ世界柔道選手権」78kg級において、梅木真美さんが優勝。

2016 (平成28年)

- 1. ー マイナンバー制度が導入され、マイナンバーカードの交付が開始。
- 3. 30 みつばこども園落成式。平成28年4月より開園。（写真㉓）
- 4. 14
 - 16 熊本地方を震源とする地震が同一地域で連続して発生。熊本県益城町、西原村で震度7、九重町でも震度5強を観測し、町内の道路や農地、建物に甚大な被害。
- 8. 11 梅木真美さんが、リオオリンピック柔道78kg級に出場。



2020 ~2024

10. 30 九重「夢」大吊橋10周年記念式典及び感謝祭。

2017 (平成29年)

- 6. 24 南山田ふれあい交流センター（南山田公民館）落成式。
- 7. 22 宝泉寺交通センターに宝泉寺温泉観光物産館「宝泉寺駅」がオープン。
- 8. 18 ~21 第47回全日本中学生ホッケー選手権大会が玖珠郡を会場に行われ、ここのえ緑陽中学校の男子・女子チームともに出場。（写真②4）
- 10. 20 ここのえまち総合サービス株式会社設立。
- 11. - 生物多様性ここのえ戦略策定。

2018 (平成30年)

- 4. 1 ここのえまち総合サービス株式会社が一部事業をスタート。
- 9. 15 野上ふれあい交流センター（野上公民館）落成式。
- 10. 6~
- 11. 25 大分県で第33回国民文化祭・おおいた2018及び第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会開催。九重町でもミュージカルをはじめ5つのイベントを開催。（写真②5）

2019 (平成31年)

- 4. 27 ぐらしのサポートセンター東の設立総会。活動がスタート。（写真②6）
- 6. 8 東飯田ふれあい交流センター（東飯田公民館）落成式。

2019 (令和元年)

- 10. 1 消費税がそれまでの8%から10%に引き上げられ、この税率引き上げと同時に、消費税の軽減税率が実施。
- 12. 9 ここのえ緑陽中学校が、台湾高雄市の大灣國民中学、鳳山國民中学と姉妹校提携。

2020 (令和2年)

- 1. 16 国内で新型コロナウイルス感染者が初めて確認。
- 2. 28 「九重町新型コロナウイルス感染症対策本部」が設置。
- 4. 8 「竜門の滝」で近くの山から落石。立ち入りを規制。
- 7. 3~
- 8 令和2年7月豪雨により、人的被害はなかったが、町内各地で家屋の浸水や道路、農地等で甚大な被害。（写真②7）
- 11. 22 ぐらしのサポートセンター南の設立総会。活動がスタート。（写真②8）

2021 (令和3年)

- 3. 1 令和2年7月豪雨により不通となっていた、JR久大本線が開通。（写真②9）
- 4. 1 J A おおいた（大分市）とJ A 玖珠九重（玖珠町）、J A 九重町飯田（九重町）の3農協が4月1日付で合併。
- 4. 24 東京2020オリンピックの聖火リレーが九重町（釜ノ口~大吊橋北方）で行われ、九重

町出身のオリンピック石井（旧姓：岩尾）幸美さんをはじめ6名の聖火ランナーがリレー。

2022 (令和4年)

- 4. 21 春季県体県内一周大分合同駅伝競走大会の終了が発表。
- 7. 30~
- 8. 7 日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念事業として、モンゴル現代絵画展が元モンゴル駐箚（ちゅうさつ）特命全権大使の清水武則氏宅で開催。

2023 (令和5年)

- 5. 28 ぐらしのサポートセンター飯田の設立総会。活動がスタート。（写真③0）
- 9. 6~
- 11 九重町モンゴル表敬訪問事業として、温泉地で有名なアルハンガイ県ツェンヘル郡を訪問。「温泉の町交流」のための協議を行う覚書を締結。（写真③1）
- 10. 8 新型コロナウイルス感染症の影響により開催が中止されていた「町民スポーツ大会（旧称：町民体育大会）」が4年ぶりに開催。
- 12. 15 ふるさと九重町への郷土愛醸成を図る契機として、「九重町町民の日」（2月1日）が制定。

2024 (令和6年)

- 2. 1 町民の日が制定され初めて「九重町町民の日

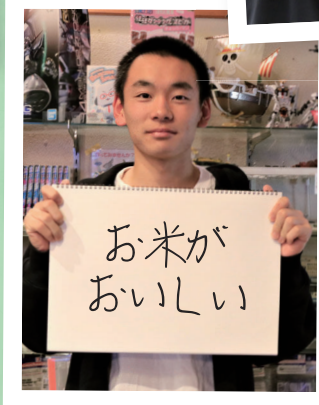
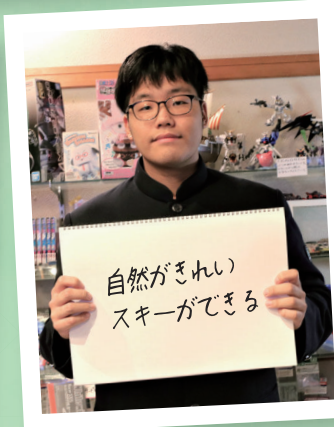
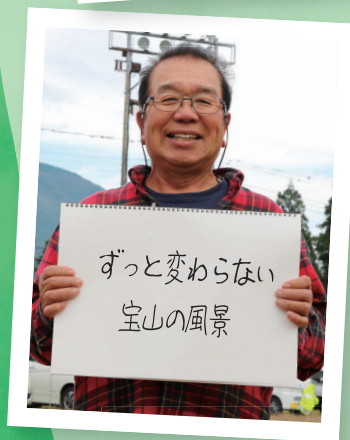
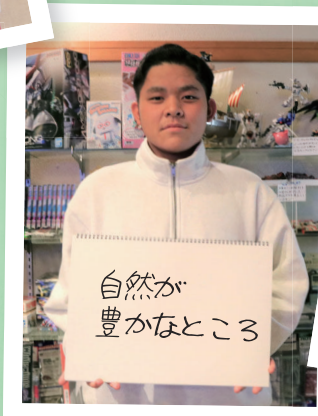
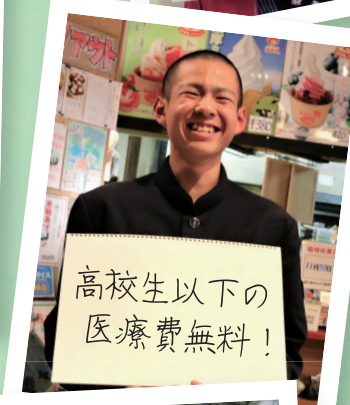
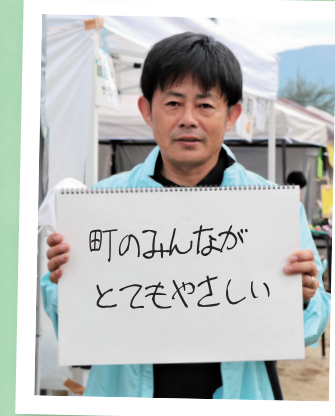
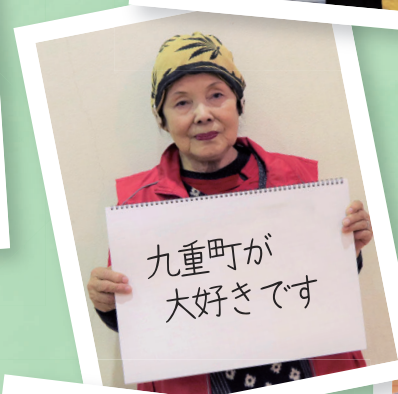
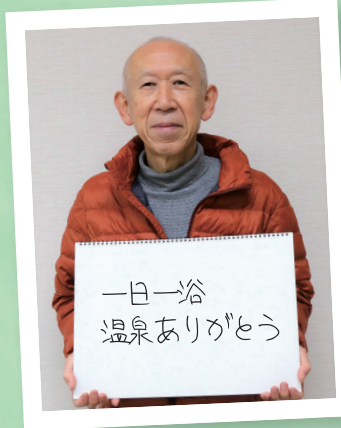
記念式典」を開催。（写真③2）

- 2. 9 「淮園ほたるトンネル」の開通式。トンネル名は、地元淮園小学校で公募され、投票により決定。
- 4. 27 J R 九州の新列車D & S 列車（デザイン&ストーリー列車）として「かんぱち号」が運行開始。「かんぱち号」は、久大線の敷設運動に尽力された麻生観八氏から命名。（写真③3）
- 6. 26 台湾・花蓮県豊浜郷から邱福順豊浜郷ら7名の訪問団が九重町を来訪。交流人口の拡大などを目的とした連携・協力に関する覚書を締結。（写真③4）
- 10. 1 コミュニティバスが、九重縦断線を除きデマンド交通（予約型乗合バス）として運行開始。
- 10. 12 国際サイクルロードレース マイナビツール・ド・九州2024が開催。大分ステージでは、やまなみハイウェイのほか町内各所を疾走。
- 10. 9 岐部正芳さん（雅号 岐部笙芳）が、竹工芸において確かな技術と芸術性の高さや後進の育成などの功績が評価され、重要無形文化財の保持者（人間国宝）に認定。（写真③5）

Connect to the future

九重町民に聞いた 町民の声

町制施行70周年を記念して
町民の皆さんに九重町の好きなところや
良いところを聞いてみました。



ご協力ありがとうございました。

まちづくりの基調

みんなでつくるころ豊かで、しなやかなまち

住民を主役として、地域、団体、行政などすべての人々が協働してそれぞれの役割を果たし、社会・経済の様々な環境変化にも耐え得るしなやかなまちづくりを推進します。

「ひと・モノ・お金」が循環し、活力あふれるまち

地場産業の育成を図り、地域資源を活用して稼げる、足腰の強い産業を創造し、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進します。

笑顔があふれ、安心して暮らし続けられるまち

豊かな自然環境を保全しながらも、道路や河川、交通、情報ネットワーク等のインフラを管理し災害等に対して安全性が高く、安心して暮らし続けられるまちづくりを推進します。

こどもたちの夢を育み、希望をかなえるまち

未来を担うこどもたちは、地域の宝です。そこで、こどもたちがふるさとを愛し、自ら学び、自ら行動し、それぞれが思い描く夢や希望を実現できるよう、学校・家庭が協力し合い、希望をかなえるまちづくりを推進します。

手と手をつなぎ、誰ひとり取り残さないまち

地域住民や本町にゆかりのある多様な主体等がつながり、人と人、人と資源が世代や分野を超えて、ともに助け合い・支え合い、誰ひとり取り残さないまちづくりを推進します。



人は、時に厳しくも美しい自然の姿に心を打たれ、また、誰かの優しさにそっと包まれる瞬間に、幸せを感じるものです。それは、自然の雄大さと人々の温もりに寄り添われながら、日々の暮らしを紡ぐことなのではないでしょうか。戦後の日本は、経済成長の波に乗り、物質的な豊かさを追い求める中で、どこか画一的な町並みが広がっていきました。しかし、今こそ私たちは、失われたものを探すのではなく、すでにある大切なものを見つめ直す時期に来ています。その視点の転換こそが、町の個性を生かし、持続可能な未来を切り開く鍵となるのです。

基本計画（取組内容）

こころを繋ぎ、みんなでつくるまちづくり(協働・人権・行財政経営)

協働のまちづくりの推進、男女共同参画社会の実現、人権尊重社会の実現持続可能な行財政経営の推進

地域の資源を活かし、いきいき働けるまちづくり(産業振興)

農林畜産業の振興、商工業の振興、観光の振興

自然とともに、心地よく暮らせるまちづくり(自然・生活環境)

循環型社会・再生可能エネルギー、環境保全の推進、住環境の整備道路・交通網の整備、デジタル社会への対応

安全・安心な暮らしを守るまちづくり(防災・防犯)

防災・減災の推進、安全な暮らしの推進

助け合い、みんなで支えるまちづくり(健康・福祉)

健康づくりの推進、地域福祉の充実、結婚・出産・子育て支援の充実、高齢者福祉の充実、障がい者福祉の充実

地域に学び、ひとを育て、未来が輝くまちづくり(教育・文化)

幼児教育・学校教育の充実、社会教育の推進、文化・スポーツの推進



ここ、九重町では、自然の恵み豊かな土地や気候を活かして暮らしを営み、長い歴史の中でお互いに助け合い、支え合って生きる文化が育まれてきました。畑仕事を手伝い合い、採れた作物を分け合うその日常は、まさに人と人とが結び合い、思いやりの心で紡がれたものです。小さくてもキラリと輝く町づくりを目指して、先人たちが守り伝えてきた「豊かなところ」、そして人々を優しく包み込む「癒やしの自然」。その宝物を、私たちは大切に受け継ぎ、未来へとつなぐバトンとして、九重町第5次総合計画のテーマに込めています。そこには、この町を愛するすべての人の思いが宿っています。

「九重町」ってこんな町

■位置

九重町は大分県の南西部に位置し、標高 1,700m級のくじゅう連山に囲まれ、筑後川の上流玖珠川が東西に走る面積271.37km²の広大な町です。また町土の約半分が阿蘇くじゅう国立公園・耶馬日田英彦山国定公園に指定されています。

■町章



町章は「マル」の中に九の文字が入れてあります。周円は全町の和を表し、町の基盤が堅固であることを九の字を肉太にして表したものです。

■町民憲章

1. 誇れる歴史と文化を伸ばし育てよう。
1. あたたかい心でふれあいを大切にしよう。
1. 健康で住みたくなる町にしよう。

1. 恵まれた自然を愛し守りつづけよう。
1. 豊かな資源を生かし伸びゆく町にしよう。

【昭和58年12月1日制定】

■町の花

「ミヤマキリシマ」

くじゅう連山にあり、自生地日本随一とも言われ、天然記念物にも指定されています。



■町の木

「くぬぎ」

町の基幹作物「しいたけ」の生産活動に欠くことのできないものであり、古くから親しみをもたれています。



■町の鳥

「カッコウ」

緑の中で聞くカッコウの鳴き声は牧歌的であり文学的にも親しまれる、九重の草原に最も適した鳥です。



■九重町の人口・世帯数・人口動態

人 口	8302 人(令和 6 年 12 月末現在)
世 帯 数	3843 世帯(令和 6 年 12 月末現在)

九重町では、行政のお知らせやイベント情報などをより手軽に、また緊急時には迅速にお届けするための手段として、ソーシャルメディアを活用した情報発信に取り組んでいます。



Facebook



Instagram



X



LINE



九重町

KOKONOE TOWN